



市史へんさん

第 280 号

令和 4 年 7 月 1 日

小松市史編纂担当

へんさんだより

先月 19 日に珠洲で震度 6 弱の地震がありました。コロナ禍もまだ冷めやらない中、災害が押し寄せ、今もなお余震が頻繁に起こり、能登の方々には不安な毎日を送っていることと察します。

5 月には知床で船舶事故があり、海の恐ろしさを改めて知らされたばかりです。海と言えば、7 月に、「海の日」の祝日が第 3 月曜日に充てられています。この日は、海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日です。明治天皇が東北巡行を終え、船で 7 月 20 日に横浜に無事帰還したことに由来します。今年は特に、今後、海での災害が二度と起こらないように、強く願いたいですね。梅雨明けが史上最速で、真夏日が続く日々の中、海に一日中どっぷりと浸かっていたい気分ですが、体調を整えて、海の規律をよく守って、楽しんでくださいね。

『小松旧記』に見る地震史料



先月は、『小松旧記』から江戸期の当地方の水害状況を調べ、梯川の氾濫に、住民は悩まされていたことが窺えました。北陸は比較的地震の少ない地ですが、珠洲の地震をきっかけに、江戸期はどうだったのか、『小松旧記』を紐解き、一覧表にまとめてみました。意外と多く、寛政 11 年と安政 5 年には金沢を中心に大地震があり、家屋倒壊の被害が大きく、今以上に復興が大変だったことが窺えます。余震の回数の多さは現在と似ており、大地震へと繋がっています。こうした過去の事例が防災に役立ちます。7 月 29 日は「市民防災の日」。備えを忘れずに!!

年		月日	被害状況
和暦	西暦		
宝永 4 年	1707	10 月 4 日	関西地方を震源地とした大地震。当地方も相当の地震を見舞う。被害状況不明。
享保 2 年	1717	4 月午後 2 時頃	大音響と共に地震が起こった。小松では酒屋・醤油屋の桶が揺れこぼれ、家や土蔵の土台石が動き、軒が傾く家が多かった。人命の損害は無かった。
享保 10 年	1725	5 月 7 日	小松附近を震源地として地震。日中に 53 回、夜間には 16 回もの余震が記録され城の石垣、御蔵等に破損があった。
享保 14 年	1729	7 月 7 日	能登半島に大地震があり、珠洲・鳳至両郡だけでも潰家 791 軒、山崩 1,731 ヶ所死者 5 名を出す惨状を呈した。当地方は余波はあったが、大した被害無し。
宝暦元年	1751	4 月 25 日	越後名立山を震源地として大地震。下街道の往来を閉塞する程の山崩れや人命、家屋に損害有り。当地方は同日夜強震。度々の余震があったが、被害は無し。
天明 2 年	1782	4 月 24 日午後 4 時	小地震。被害無く、人々が戸外へ飛び出す程度であった。
寛政 2 年	1790	8 月 12 日夜 9 時	強震があったが、震源地や詳細な状況は不明。
寛政 6 年	1794	12 月 1 日午前 10 時	雪や風の日であったが地震あり。被害皆無。
寛政 11 年	1799	5 月 26～29 日	26 日に金沢を中心に大地震。範囲は小松から越中石動まで。26 日昼 3 度、夜 7 度 27 日昼 7 度、28 日昼 2 度、29 日昼 1 度の余震。小松地方は損害軽度。金沢は城の石垣の崩落 28 ヶ所。領内の潰家 6,170 軒。死傷者 27 人に達す。
文化 12 年	1815	1 月 21 日夜 10 時	小松城に被害多く、金沢方面は軽度であった。
文政元年	1818	4 月 14 日午後 2 時	軽度の地震。
文政 2 年	1819	6 月 12 日夕刻	強い地震があったが、被害は余り無かった。
文政 7 年	1824	1 月 14 日午前 10 時	やや強い地震。夜まで 3～4 回の余震。15 日夕方にも揺り返しあり。被害無し。
文政 11 年	1828	8 月 29 日午前 7 時	軽度の地震。被害無し。
安政 5 年	1858	2 月 26 日夜 2 時	金沢を中心に強震。余震は 10 日余り続き、南部は大聖寺まで及ぶ。倒壊家屋多く戸障子の倒れ、壁の落下など被害各戸にあり。寛政年度に次ぐ大地震。

『新修 小松市史 資料編 18 近現代』第 11 章の見どころ

第 11 章「災害と防災」では、近現代の災害の内、梯川・手取川筋の水害、小松町の昭和の大火及び豪雪災害について、被害状況、対策、復興への努力の足跡を取り上げた。

第 1 節「水害」では、大災害となった明治 29 年(1896)と昭和 9 年(1934/写真右)を取り上げ、『北浅井村萬留帳』、『石黒家村長日記』や『各学校沿革史』等の資料より各地域の被害状況、役場や各学校の対応を記し、大惨事だった様子を示す。



第 2 節「火災」では、九龍橋川を境に起きた昭和 5 年の橋北の大火と同 7 年の橋南の大火(写真左)を取り上げた。この両火災により、小松町は壊滅的な被害を受けたが、官民挙げての努力により、同 10 年に復興祭を挙げてきた。その罹災状況、小松町や学校の対応、復興に向けての史料を『町報』、『町会会議録』ほかの諸記録から選録した。特に、復興の様子は町発行の『復興写真画報』に収められ、短い年月の間に、小松町が見事な復興を成し遂げたことが窺い知れる。

第 3 節「雪害」は、小松市全域にわたり生活全般に混乱を与えた昭和 38 年の三八豪雪(写真右)と同 56 年の五六豪雪を特筆する。その状況は、市消防本部所蔵資料と新聞報道より収録した。なお、五八豪雪の積雪は、雪解けと梅雨とが重なり、水害へと連動し、栗津温泉街や小松市域各地を襲い、二次災害を起こしている。



第 4 節「防災」では、梯川治水と消防組織に関する史料を収録した。水害の要因となる梯川は明治末期より工事が行われ、堤防拡張、河口整備、逆水門設置等が実施された。火災は、2 度の大火の教訓を受け、機械ポンプを導入し、消防人員の常備制が成立した。

<6月の活動状況>

- ・ 6 月 2 日(木) 北海道移民関係調査
- ・ 6 月 17 日(金) 青年団関係資料調査
- ・ 6 月 18 日(土) 災害(水害・火災)関係資料調査
- ・ 6 月 18 日(土) 通史(生活文化)部会
- ・ 6 月 25 日(金) 大和善隣館関係資料調査



『新修 小松市史 資料編 18 近現代』DVD 付
定 価：5,100 円
販売所：市史編集担当・うつのみや・明文堂書店

<7月の活動予定>

- ・ 7 月 1～3 日 尾小屋鉱山関係資料調査
- ・ 7 月 3 日(日) 通史(近現代)部会

<7月のカレンダー> 開室時間 10:00～17:00(火～金)/9:00～17:00(土)

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
6/26	6/27	6/28	6/29	6/30	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6

* は市史編集担当の事務局は閉室しています。

小松市史編集担当 (小松市立図書館 2 階)

- ・ 住所 〒923-0903 小松市丸の内公園町 19 芦城公園内
- ・ TEL 0761(24)5315 ・ FAX 0761(22)9763
- ・ E-mail hensansitu@city.komatsu.lg.jp
- ・ URL <https://www.city.komatsu.lg.jp/soshiki/toshokan/shishihensan/index.html>

